

① 分科会分担分【補正予算議案】

予算決算委員会 社会文教分科会座長報告

令和7年6月 26 日 予算決算委員会

○議案第 73 号のうち、社会文教分科会の分担となりました部分
及び 議案第 74 号、議案第 75 号のうち、社会文教分科会の分
担となりました部分 の審査の経過

○議案第 73 号

「令和 7 年度飯田市一般会計補正予算（第 1 号）案」のうち
当分科会分担分

○ 4 款 衛生費、1 項 保健衛生費、3 目 成人保健事業費の
高齢者予防接種事業費 に関し

【質疑】「コロナ予防接種委託料の積算根拠はどのようなものか。

今年度は国からの補助がなく、全額一般財源ということ
だが昨年度と今年度の自己負担額の違いは」

【答弁】「予算案は、昨年度の実績をもとに算出した。昨年度は国
からの助成金があったため、その 8300 円をまず予防接種
料に充て、残り 7000 円のうち 4000 円を市が補助し、3000
円を自己負担してもらった。

今年度は国からの助成金がないため、接種料の半分程度
を市が支援し、8000 円を自己負担していただく」

【質疑】「このワクチン接種の副反応による市民の健康被害や死亡
の状況を把握しているか」

【答弁】「市で把握しているのは、新型コロナワクチンの健康被害
救済制度の申請数であり、申請者は 16 名、審査中が 1 名、

認定者が13名で、そのうち亡くなった方は3名である」

【質疑】「ワクチン接種は人により副反応があるが、市としてコロナワクチン予防接種は必要なのか」

【答弁】「このワクチンは、コロナ感染症が拡大した当時は蔓延防止が目的だったが、現在は感染を防ぐ、また重症化を防止するという目的で接種を勧めている。ワクチン接種にはリスクもあるが、接種しなかったことによるデメリットもあると認識している。接種希望者がいる場合に、公的支援が何もなく全て自己負担となると、負担が大きいため、半額程度を市で補助し、接種したい方に寄り添っていきたいという思いから、予算計上した」

【質疑】「この予防接種事業は 65 歳以上の市民が対象者なので、正しい情報の取得、様々な視点からの情報の取得が難しい状況にあると思う。予防接種に関してメリットとデメリット 両方をしっかり伝えるべきと思うが、どのように考えているか。医師からの説明だけでなく、紙媒体などしっかり情報が伝わることを行うべきではないか」

【答弁】「国が推奨しているワクチンを、明らかに否定する発言はできないが、メリットとデメリットがあるということを紙媒体で伝えていけるように少し工夫してみたい」

○ 10 款 教育費、2 項 小学校費、3 目 小学校建設費の
小学校建設事業費 に関し

【質疑】「今回の体育館と同様に老朽化していると認識している体育館はあるか」

【答弁】「体育館が築 40 年を経過している学校もあり、経年劣化

は大きなり小なりあると認識している。学校において日常点検や修繕を行っているが、改めて学校と教育委員会の担当者、担当部署で点検を徹底していきたい」

【質疑】「説明の中で、今回はシート材を貼って補修していくという説明だった。そのシート材の選定理由と耐久性はどのようなものか」

【答弁】「今回使用する素材は、1947 年に開発をされ、世界中のスポーツ施設や生涯スポーツを含む多くの国際スポーツ大会に採用されている。高い安全性と競技性を兼ね備え、あらゆる層のユーザーが利用できる。非常に優れた耐久性と、メンテナンスの耐久性もあり、メンテナンスが容易であり、管理する者にも優しい最先端の床材である。すでに市内 3 つの小学校でこの素材を使用している」

○ 議案第 74 号

令和 7 年度飯田市病院事業会計補正予算（第 1 号）案

【質疑】「手術支援ロボットの導入により、今まで市立病院で行えなかった手術に対応できるようになっていくということだが、操作する人材はどうするのか」

【答弁】「今回の導入では、現在市立病院に勤めている医師で手術対応できる」

【質疑】「手術支援ロボット導入後、初症例は来年 2 月を想定しているとの説明だったが、そこが最短のスケジュールか」

【答弁】「今回の補正予算案可決後の想定しているスケジュールは、病院手術室への設置に係る施設整備を行うとともに、機器納入が早くて9月から10月。その後、医療ロボットを使用する医師が一定期間の操作トレーニングで操作資格を取得し、初めて症例に対応できるため、早くて2月となる」

【質疑】「現在市立病院の経営が非常に大変な状況のなか、今回手術支援ロボットの導入にあたり院内でどのような議論がされたのか。また費用対効果をどのように考えているか」

【答弁】「当院はこの地域の医療圏の急性期を担う中核病院であり、がんの連携拠点病院でもある。このことから病院内において、導入について検討を進めてきたが、『現代ではロボットを活用する手術はスタンダードになり、地域から必要とされる医療、またなくてはならない医療ではないか』と、今年に入り院内で合意が取れた。大変高額な機器であり、その全てを回収できるかというのは、症例数などにもよるため、なかなか難しいところである。若手医師はこの機械がないとなかなか当病院へ来てもらえない状況もあるため、医師確保の面でもこの手術支援ロボットを入れていきたいと考える」

○議案第 75 号 「令和7年度飯田市一般会計補正予算（第2号）案」のうち分担分 申し上げることなし。